



が日本パラ陸上競技連盟

過去3年間は、全国9プロ

ックが持ち回りで

開催する全国大会

開催地および近隣

の自治体、福祉施設等に一般的な車いすを贈呈してきたが、今年度はコ

前列左から全青  
会の池田会長、J  
PAの増田会長、  
花岡副理事長、後  
列同全青会の川  
合監事、高田副会  
長、馬場副会長、  
坂本副会長

全国鐵構工業協会 青年部会

パラ陸上競技連盟に競技練習用車いす寄贈

～全国展開の慈善活動で～

全国鐵構工業協会 青年部会(略称・全青会、会長 池田和隆・池田鉄工社長)は20日、「第32回日本パラ陸上競技選手権大会」会場の駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場(東京都世田谷区)で、全国の会員の協力を得て購入した競技練習用車いすの贈呈を行った。池田会長らが日本パラ陸上競技連盟

(JPA)の増田明美会長(現物1台と目録を手渡し)に現物1台と目録を手渡した。

この活動は全青会が慈善事業の一環として17年度から継続しているもの。全国の青年部会員各社で発生した使用済み溶接用ノズル・チップ等を収集・換金し、その資金を基に車いすを購入して関係各所に寄贈する。

この活動は全青会が慈善事業の一環として17年度から継続しているもの。全国の青年部会員各社で発生した使用済み溶接用ノズル・チップ等を収集・換金し、その資金を基に車いすを購入して関係各所に寄贈する。

過去3年間は、全国9プロックが持ち回りで開催する全国大会開催地および近隣の自治体、福祉施設等に一般的な車いすを贈呈してきたが、今年度はコロナ禍の影響で全国大会の実開催中止(ウェブ開催)を早々に決めたため、パラ陸上関係者と交流があった九州ブロックの馬場友幸副会長の提案によりJPAへの贈呈を決めた。

コロナ禍の影響で全国大会の実開催中止(ウェブ開催)を早々に決めたため、パラ陸上関係者と交流があった九州ブロックの馬場友幸副会長の提案によりJPAへの贈呈を決めた。

寄贈したのはレース用車いすのエントリーモデルで、車体の両側には全青会のステッカーを貼付。贈呈台数は当初3台を予定していたが、全国の会員から予想を上回る協力が寄せられたため計5台とした。

贈呈に当たり、JPAの増田会長からは「パラ陸上競技への皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます」と、また花岡伸和副理事長からは「頂いたレース用車いすをより多くの人たちに体験してもらい、競技のさらなる普及につなげていきたい」と感謝の言葉が寄せられた。

全青会の池田会長は「コロナ禍という厳しい環境下で協力を頂いた全国の会員に改めて感謝と敬意を表したい。この事業は『全国の仲間がひとつの事業の達成に向けて団結力を養う』ことも目的のひとつ。引き続き活動を継続し、社会に貢献していきたい」と話している。



寄贈した競技練習用車いす



車体に貼付した全青会ステッカー

なお当日、全青会側は池田会長、馬場副会長のほか、高田知明、坂本泰雄両副会長、川合徳和監事の計5人が参加。贈呈後には場所を目黒駅近くの貸会議室に移して今後の事業運営等について協議した。